

【補聴器の種類と利用は】

★

①言葉を聞き取るのは耳であり、補聴器は、音や言葉を「聞き取りやすく調整」して耳に送り届ける道具です。高性能の補聴器を使っても、若かった頃のような「聞こえ」は得られないです。基本的には、大きな物音（たとえば、お茶碗などの食器がぶつかる音、扉がきつくしめる音など）が、頭に響くほど大きくならない補聴器を選ぶことが必要です。

②一般的に感音難聴では、イナミックレンジ（可聴範囲）が非常に狭くなる現象があります。小さな音が良く聞こえるように増幅するだけでは、大きな音は大きくなり過ぎて、不快感になり、耳を痛めることもあります。小さい音から大きな音まで、ダイナミックレンジの中に収まるように圧縮するためには、出力制限装置が必須になります。

- ・ 家の中でテレビの声と家族の声が聞こえたらいいという方は、ポケット形補聴器で充分です。
- ・ 外にも付けていけないといけない方は、逆にポケット形では、大きく邪魔になることがあります。
- ・ 静かな家の中や職場で使う場合と、工場や電車、車の騒音などがうるさい所で使う場合とでは、適した補聴器の種類が変わってきます。

③種類

- ・ ポケット形は、大きく使いやすいのが特徴です。同じ性能なら、値段も一番安いし、音質も良好です。スイッチやボリュームなどが大きい上、目で見て操作ができ取り扱いが簡単です。
- ・ 耳穴形は、行動的で外出先や屋外に使用される方、外見を気にされる方の利用が多いです。オーダーメイドの耳穴型には、従来のアナログ増幅方式と現在主流になっているデジタル補聴器の2種類があります。
- ・ 耳掛形は、ポケット形と耳穴形のちょうど中間に位置します。大きさも価格帯も中間にあたります。また、軽度難聴用の低出力のものから耳穴型では対応できない高出力のものまで、アナログ補聴器からデジタル補聴器まで種類が豊富にあります。

⑤補聴器を自分で使いこなせるかを実際に試すことが必要です。

- ・ 耳へのつけ外し
- ・ 電池の入れ替え
- ・ スwitchの操作
- ・ ボリューム（音量）の操作

ボリューム操作に関して、ポケット形以外は、耳に装着したままで行なわなければならないので注意が必要です。（動で音量調節のできる補聴器もあり

ます。)

⑥アナログ補聴器・デジタル補聴器

- ・アナログ補聴器は、音を電気信号に変換して増幅します。音（音波）を電気信号に変換し、電気の波を大きく（増幅）することにより、再び音に変換したときには音が大きくなっているのがアナログ増幅です。
- ・デジタル補聴器は、音を数字に変換して計算します。音を一旦、0と1の数字（デジタル信号）に変換して、各種の演算をした上で再び音に変換するのがデジタル増幅です。

⑦種類と参考価格

・耳穴形

既製耳穴形とオーダーメイド耳穴形があります

オーダーメイド耳穴形

ディープカナル型 (150,000～400,000 円)

カナル型 (100,000～400,000 円)

フルサイズ型 (100,000～400,000 円)

既製耳穴形 (50,000～100,000 円)

・耳掛形 (30,000～300,000 円)

・ポケット形 (30,000～100,000 円)

・メガネ形 (価格はいろいろ)

耳掛形補聴器を専用ジョイントに接続するタイプ

メガネのつる（テンプル）に補聴器を組み込んだタイプ

骨導式で耳の穴に差し込む耳栓が不要なタイプ